

平成24年度 第2回 栗東市市民参画等推進委員会 会議録

日時：平成25年3月10日（日）

10：00～12：00

場所：コミュニティセンター治田東

内容：1．開会

2．市民憲章唱和

3．あいさつ

4．意見交換

平成25年度協働事業提案に基づく協働事業報告

市民参画と協働の実施状況について

「栗東市職員協働事例集（案）」について

5．終了

出席者：新川達郎、林 章、井之口清治、田井中勇、高宮 弘、小松直利、寺井利彦（敬称略）

【会議内容】

1，開会

2，市民憲章唱和

3，あいさつ

新川委員長、澤部長

4，意見交換

平成25年度協働事業提案に基づく協働事業報告＜資料1＞

（新川委員長）

それではお手元の資料に基づき意見交換をしていきたいと思います。資料1について事務局より説明をお願いします。

（事務局）

資料1平成25年度協働事業提案に基づく協働事業報告について説明。

成果報告会での審査委員長の講評について報告。

（委員長）

それではここまでのご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

（委員）

この委員が何をすべきなのか、自分でもまだよく分かっていないのですが、この出している書類をもう少しわかりやすくしてほしいですね。目的・成果など。こうやって書いてあると、あまり理解できないので、意見を述べにくいです。

(委員長)

選考結果の報告の際に、事業の内容などもう少し分かる資料をつけてほしいという意見でした。

(委員)

この目的がわかりません。結果が載っているのに、何を議論したらよいのでしょうか？

(委員)

しくみそのものの審議だと認識しています。審査の方は審査委員に任せていますので、事業そのものの内容ではなくて、もっと大きな枠組みで、協働の市としての取り組み方について、意見を交わすことだと思います。私は審査委員にも入っておりますが、審査委員会のやり方がこの会議と共有できていないのかもしれないかもしれませんね。今日の会議に団体の申請書などを添付すると良かったかもしれません。

(事務局)

委員がおっしゃっていただいたように、審査委員になっている方とこの推進委員会だけの委員さんとの理解度に差があって、今後、そこの連携をさせていただきたい。本来この会議は、協働事業提案、条例の進捗状況、市民参画という広い枠の中で意見を述べていただくもので、これは、その中の今年度に採択された協働事業提案制度の報告をさせていただいたものです。協働事業提案制度のしくみと本来の意味で協議させていただきたく思いますので、よろしくをお願いします。

(委員)

平成25年度は、市民活動団体コースに地域振興協議会コースができたというのが大きな変化だと思いますが、このしくみでは、前年度に審査をして次年度に事業実施という流れになっています。市民活動団体については今年やりたいことを今年中に、地域振興協議会コースは、長いスパンで考えていくという特徴があると思いますが、前年度に審査して、次年度に実施するという流れについて、メリットとデメリットはどうでしょうか。

(事務局)

地域振興協議会は毎年、5月～6月に役員が決まります。その役員さんが次年度の事業を計画して、審査を受けるというような地域振興協議会に合わせて審査を行っています。市民活動団体については、相手に行政や、地縁団体が絡んでくる場合は、都合がよいかと思えます。マミーズバンドさんでは、学校と一緒に事業をしたいという話が出ていたので、もし、学校と一緒にするのであれば、前年度に計画をするほうがいいですし、滋賀ものづくりネットであれば、平成25年度は夏祭りを計画されていますが、自治会などをお願いする場合、平成25年度の5月に採択されてからでは間に合わないの、前年度に計画の方が都合がいいかと思えます。一方で、市民団体で、地域の課題が見つかって、すぐに動き出したいというのには、このスケジュールでは不適かなと思えます。その場合は、他の助成事業を紹介するなどして対応していきたいと思えます。緊急性の高い地域の課題についての対応をどうしていくのかということが課題ですね。

(委員)

非常に大事な話ですね。市民団体も行政のスケジュールを理解していくという点でプラスに捉えたらいいのかなと思います。

(委員)

市民活動団体と地域振興協議会は全然違うものなので、審査を一緒にするのはどうかと思いますが。

(委員)

懸念される面もあると思うけれども、プラスの面もあるんじゃないかなと思います。

(委員長)

計画的に進めていく事業については、このスケジュールでよいかと思いますが、すぐにしなければいけない事業に対してはどうするのか？という問題があります。今後機動的にお金をとれるしくみ、柔軟に対応できるしくみをつくる必要があります。例えば、予算のうちの1割程度はすぐに対応できるお金として残しておくなど。予算の制度上、前もって決めておかないと難しい部分もあるかと思いますが、地域ではすぐに対応しなければならない場合も出てくると思います。このしくみがすべてではないので、役所だけではなくて、色々な助成を提供するという手だてもあるかと思っています。

(委員)

子育てサロンここ愛さんの提案ですが、男性の育児参加の後押しとありますが、男性が育児に参加できない理由とその解決策をきちんと出されて事業の計画をされているのかどうか。家庭の事情の問題もあると思います。そこまで立ち入ってすべき事業なのかどうか疑問に思います。それから、演劇祭ですが、私も実際に見に行きましたが、団体が好きでしているという印象を受けました。地域の広がりや課題の解決というところまではいってないように思います。

(事務局)

ペーパーだけでは、本当にできるのだろうかという疑念を抱く部分もありますが先週の成果報告会ではパワーポイントを使ってそれぞれが発表をされているのを見て、感動いたしました。行政においては、色々な分野の地域の課題がありますが、それを全部解決するのは難しいです。そういった部分で、それを協働事業というコラボレーションという形で団体と課題の一部を担っていただいています。審査委員会の中で、目的・効果について審査していただくというのはしくみとしてはいいのかなと思います。

(委員)

演劇祭においては、昨年も今年と同じようなことが書いてあったが、結果はどうだったのか？そこをしっかりと確認していただきたい。

(事務局)

子ども向けのワークショップを3月にしていただいています。一般向けのワークショップをさきらの方でされていたのが、来年度については、栗東市内各地で、できるだけたく

さんワークショップをしたい、それと同時に、公民館や会議所を借りて、演劇を自治会などで見ていただくという提案で、そこで演劇を通じて、地域のつながりであるとか、文化振興であるとかに相乗効果的に結びつけていきたいという内容です。

(事務局)

協働のまちづくり推進条例を作成し、そのしくみについて色々と思考錯誤しながら今日まで積み上げてきた状況です。協働についての展開のPRが足りないということが議会の中でも言われていまして、もっと活発にPRをして、色々な課題に対して取り組んでいくように募っていく必要があります。また、各課の課題をもっと発掘して、地域の団体とコラボしながら解決していくようなしくみが必要です。また、現在、元気創造まちづくり事業は、市民活動団体コースと地域振興協議会コースがありますが、それだけではなくて、他にもできるところがあるかもしれません。事務局一同研究を深めていく必要があるかと思えます。

(委員)

PRの仕方についてはどう考えていますか？

(事務局)

条例が21年にできてから、「協働とは何か」ということのパフレットを作成しています。また、協働まちづくり通信というのを毎月発行しておりまして、その中で、協働事業提案制度の団体とその内容、元気創造まちづくり事業の団体とその内容、市民参画等推進委員会の内容や協働の取り組みなどをわかりやすくまとめています。それを職員、市民さんにも見られるように、HPにも公開しています。その他、協働事業提案制度の採択団体、元気創造まちづくり事業の採択団体をHPに載せています。広報りっとうお知らせ版に載せたり、出前講座とって、条例の内容や協働事業提案制度の内容について要望があれば、職員が出向いて話すという講座をしています。

(委員)

僕は協働とかまちづくりに関しては関心があるけれども、全然知らないんで、このギャップをどう埋めるかですね。

(事務局)

事例集ですね。こんなんでできるんやというようなものがないと思います。いかに協働事業として地域とともにおこしていくかですね。

(委員)

かまどベンチなんかはいい事例だなと思いました。これならできるかなと思います。これは広がりがありそうですね。

(委員)

事例集にこういうかまどベンチなどの簡単な事例を載せてほしい。事例集の例を構えずぎていると思います。もっと身近なところを事例に載せたらどうか。

(事務局)

協働事業提案制度だけでは協働ということに対しての広がりには少ないです。しかし、協働事業提案制度で取り組んでいる課程で、市民も職員も意識が変わるとというのが、大きな効果だと思います。行政だけでは目が届かない市民の視点も聞くことができきて、相乗効果が出ている。協働事業提案制度をすることも、協働を知るための一つのきっかけになればと思います。これが広がっていくことが大事かと思います。

(委員長)

事例集の事例を立派な事例ではなくて、みんなが参画しているような日常の事例を載せると市民の方がもっと関心が持てるのではないかという話しでした。見せ方の工夫をしてほしいということでございます。それでは続いて市民参画と協働の実施状況に移りたいと思います。事務局の方からご説明をお願いします。

市民参画と協働の実施状況について<資料2>

(事務局)

資料2について説明。

(委員長)

委員の方からご意見をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(委員)

もともとある委託事業をバージョンアップで、協働事業にしてもいいのかなと思います。市民スポーツ大会などは、最初から市民が参加できていないので、そこに計画の段階から市民に参画してもらおうとか。

(委員長)

委託事業を見ていただくと、協働の領域に対等、行政主導が書いてあります。行政主導から対等にどのように引き上げていくかということが重要かと思います。

(委員)

協働事業で一件減っていますが、今回は申請はなかったんですか？

(事務局)

うちの課の事業で外国籍住民サロンというのがありまして、今年はこの形を変えて、メキシコ風のカルタを作ろうというプロジェクトを考えまして、別のところから助成金を獲得しましたので、今回はあがっていないということです。

(委員)

あまり関係ないかもしれませんが、東日本大震災の支援を市役所からしていると聞いたのですが、本当なんですか？人が足りないと聞いていますが、そのあたりで協働できるのではないかと思います。

(事務局)

震災直後、湖南4市(草津・守山・栗東・野洲)で職員を派遣しておりました。震災か

ら2年経った今は、県や国レベルで動いています。震災においては、社協を通じて多くの募金活動をしてきました。ボラセンさんをはじめ、活動の支援をボランティア団体さんと色々な形でしていただきました。

(委員長)

それでは、栗東市協働事例集について簡単に説明をいただき、ご意見をいただければと思います。

「栗東市職員協働事例集(案)」について<資料3>

(事務局)

資料3について説明。

栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進のための職員研究会というのがございまして、これは平成20年の条例を作る時に、条例策定委員会として発足いたしました。その後、協働を庁舎内で広めるためにどうしたらよいか検討する会として、平成21年度から職員研究会という名で、2年任期でしております。平成22年度に協働事例集を作ろうという話がでまして、23年度からこの事例集に取りかかっているところです。中身は職員研究会の中で、ワークショップ形式で職員の意見を広く求めたのと、協働事業を実際にした職員を集めて、話を聞いたことを、事例としてあげさせていただきました。また栗東市市民参画等推進委員会の委員にも協力していただきました。職員向けとして作成したので、もう少し表現などを直して、かまどベンチなどのさらにもっとわかりやすい事例集を市民向けに作成していきたいと思っています。

(委員長)

このことに対して意見ございましたらお願いします。

(委員)

元気創造まちづくり事業も含めての事例集になるのですか？それとも協働だけですか？

(事務局)

この事例集は協働事業だけで、作成しました。行政の担当職員が協働事業を広めていくために作成しました。

(事務局)

地域振興協議会についても3つの団体は申請いただきましたが、残りの6つの団体にもっとPRして、手を挙げてもらわないといけないですね。市民活動団体にしても、協働のまちづくりという観点からもっとPRしていかないといけないと思います。

(委員)

職員研究会の中で、どうしたら協働事業提案制度や元気創造まちづくり事業に手があがるかというのを議論してほしいです。今は、団体が固定化されているので、もっと広くこの制度が広まるように。制度の内容にしても、毎年応募されているところは分かりますが、初めての人にはわかりにくい。なぜ伝わらないかということをぜひ研究会の中で、検討してほしいです。

(委員)

行政職員の立場を申しますと、事例集の12ページの中で、効率化だけを優先しないという部分がありますが、協働をしようと思うと手間もかかるし、板挟みにもなるし、大変苦労されるところに踏み込むかどうかというのがある。一方で、財政厳しいなかで、時間をしないようにということが求められる、その中で、やる気のある職員さんが、あいつは仕事ではなくて、趣味でしとるんやと言われてやる気をなくしてしまうというのが一番かわいそう。そこをどう助けてあげるかということも、考えていかないといけないと思います。行政のしくみの中で、職場の研修に位置づけるとか、どうサポートしてあげるかというのが大事だと思いますので、ぜひこういう研究会でまとめられた結果を職場の研修の中で出すとかして応援して行ってほしいと思います。

(委員長)

他に意見ありますか？意見されていない委員さんはどうでしょうか？

(委員)

地域振興協議会においては、なじみがないので、少しハードルが高いかなというところでは、やっておられるのを見て、これならというのをやってみようと思います。

(委員長)

協働事業のあり方ということにつきまして、市民と職員の目的の合意、さらにレベルアップしていかないといけないというご意見がございました。市民活動はもっと増えていてもいいのではという意見をいただきました。PRの方法を検討してほしいと思います。地域振興協議会においては、活発に動いていただいているが、町内会、自治会の方々にこういう事業があるのをPRしていかないといけないという意見がございました。市民参画協働については、幅広くやっていますが、これも中身が大事で、職員の方に、理解してもらって、市全体として、参画協働を進めようという雰囲気が根付くようにして行ってほしいと思います。そのためにも職員研究会で作成されました事例集をもっともっと充実させていただき、そしてこうした事例集をもっと幅広く市民の方に利用できるようにしていくというお話もいただきました。これならできると思えるようなPRの仕方をしていく必要があるかと思えます。この事例集は今回は内部向けですが、今後どう広げていくのかというのもぜひ検討していただければと思います。以上で、本日の意見交換を終了させていただきたいと思えます。

5、閉会

それでは以上をもちまして、平成24年度第2回栗東市市民参画等推進委員会を終了させていただきます。お世話になりました。ありがとうございました。お礼を申し上げまして閉会にさせていただきます。